



ニュース

都市文化研究センターの活動

栄原 永遠男／山野 正彦

(1)

記載の範囲

ここでは、第5号の記載範囲以後の2004年12月16日から、2005年3月31日までの事態を記録する。

研究・教育体制の再編

平成16年11月26日付けの「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択)中間評価結果表」および同11月30日付け「21世紀COEプログラム」中間評価結果について(いずれも本誌第5号の本欄に掲載)にもとづいて、今後の研究・教育の進め方について、常任委員会ならびにセンター会議で議論をくり返した。

その結果、2005年4月1日から、次のように再編することとなった。

〔基本方針〕

- ① 研究の対象・拠点を大阪・アジアにおく。これにともない、事業推進担当者・同協力者を再編成する。
- ② 都市文化研究の理論面での強化・充実を図る。
- ③ ITを活用し、英語の水準に留意しつつ、研究成果を積極的に発信する。
- ④ COE研究員、同特別研究員の人数枠は現状を維持する。

〔組織〕

- ① 拠点リーダー：阪口弘之前拠点リーダーの退職にともない、栄原永遠男に交代する。
- ② 常任委員長：栄原永遠男の拠点リーダーへの移動にともない、山野正彦に交代する。山野は、拠点副リーダーである。
- ③ 事務局長：事務局を統括するものとして事務局長のポストを制度化する。井上浩一が就任する。
- ④ 常任委員会：廃止。

- ⑤ 事業推進担当者：基本方針①にもとづいて、専門分野等からメンバーを再検討し、数をへらす。他部局から都市文化理論の専門家に入ってもらう。
- ⑥ センター会議：従来は事務連絡のための会議の性格が強かったが、④にともない、今後は、事務連絡に加えて、COE事業全体の方針、各研究プロジェクトにおける研究・教育の内容その他についても議論し、決定する。
- ⑦ 基本方針①にともない、従来のABCの3チームによる研究と教育の推進をあらためて、大阪(塚田孝)、中国(水内俊雄)、東南アジア(中川眞)、アーカイブス(井上徹)の4プロジェクト体制に移行する(括弧内はチーフ)。
- ⑧ 基本方針③にもとづいて、ホームページ委員会は、アーカイブス・プロジェクトに発展解消する。
- ⑨ 基本方針①にともない、ハンブルクとロンドンのサブセンターにおける教育・研究活動を、都市文化研究センターから文学研究科へ引き継ぐ。

〔事業〕

- ① 基本方針②にもとづいて、都市文化理論に関する国際シンポジウムを実施する。
- ② インターナショナルスクールは、運営委員会を設置して準備・実施する。
- ③ 上方文化講座は、従来はCOEとの関係をゆるやかな連携としてきたが、今後はCOE事業の一環として位置づける。
- ④ 演劇研究会の活動は、研究部分を中心に、COE事業として位置づける。
- ⑤ 大阪市立大学外国人研究者招聘事業によるシンポジウムをCOE事業として位置づける。

COE事務局の活動

- ① 2005年度の事業計画書を作成した。
- ② 来日した外国人COE研究員、招聘研究者(文学研究科客員研究員)の研究室の確保およびそこでの研究環境(IT環境等)の整備を行なった。ゲストハウス宿泊、学術情報総合センター利用者カードの発行の手配をした。
- ③ 『都市文化研究』5号を配布・発送した。
- ④ ジョクジャカルタ・サブセンターの移転に、栄原常任委員長と井上浩一事務局長が立ち会った。あわせて移転後の同センターの管理について協議した(3月15日)。

- ⑤ 栄原常任委員長がバンコク・サブセンターを視察し、整備を行った(3月17日)
- ⑥ COE事務室のIT環境の整備を進めた。また、関係書類の整理、FDの整理、備品の整備等、事務環境の改善に努めた。

常任委員会・センター会議の開催

[常任委員会]

第22回 2004年12月24日(金) 9時~12時

第23回 2005年1月7日(金) 9時~11時

第24回 1月14日(金) 9時~10時30分

[センター会議]

第29回 2004年12月24日(金) 13時~16時

第30回 2005年1月7日(金) 17時~19時30分

第31回 1月14日(金) 10時30分~12時30分

第32回 1月26日(水) 10時~12時30分

第33回 2月4日(金) 9時30分~11時

第34回 2月28日(月) 13時30分~15時

第35回 3月10日(水) 10時~12時

以上、いずれも開催場所は文学研究科長室
(栄原)

(2)

2005年4月1日から栄原永遠男・副リーダーが文学研究科長と拠点リーダーに就任した。これに伴い、副リーダーの山野正彦(COE事業推進担当者)が常任委員長に就き、センター会議の議長をはじめ、運営上の実務に当たることになった。また事務の責任者として井上浩一(COE事業推進担当者)が事務局長となった。本年度事務局担当教員は、土屋礼子、添田晴雄、多和田裕司(以上、COE事業推進協力者)である。2005年4月から7月までの主な本部関係事項を以下に記す。

- ① 4月1日に文部科学大臣から大阪市立大学長宛に、平成17年度研究拠点形成費等補助金交付決定通知があった。交付決定額は45,100,000円(うち直接経費41,000,000円、間接経費4,100,000円)である。
- ② 4月13日に21世紀COEプログラム委員会から、拠点リーダー宛てに、さきに提出した「21世紀COEプログラム」(中間評価後修正変更版)についてのコメントが通知された。その内容は以下のとおりである。
「中間評価後修正変更版について、特段のコメントはありません。当初目的が達成されるよう研究教育活動に努めていただきたい」。
- ③ 4月13日(第36回)、5月11日(第37回)、6

月8日(第38回)、7月20日(第39回)にセンター会議を開催した。都市文化創造という本プロジェクトの成果を集約するための推進策が検討された。文化を核とした都市づくりのためのデータベース作成のため、アーカイブス・プロジェクトの充実をはかることになった。(山野)

Aチーム「比較都市文化史研究」の活動

栄原永遠男

Aチーム運営委員会の開催

第31回 2005年2月9日(水)11時05分~12時10分

都市文化研究センター共同研究室
(121号室)

事業計画と推進状況

2004年12月23日~2005年3月31日の事業計画とその進捗状況は次の通りである。

- ① 「(平成15、16年度)Aチーム(比較都市文化研究)研究会」(井上浩一)
月例研究会を中心とし、海外研究者を招いて適宜研究会・シンポジウムを開催した。
(「研究会」の項参照)
- ② 大阪市立大学重点研究「都市文化創造のための比較史的研究」と合同でシンポジウムを開催する。(第35回研究会)
- ③ 北京・サブセンターの整備充実。とくにホームページとデータベースの整備をめざす。
(北京・サブセンターの項参照)

研究会

第31回研究会

2005年1月11日(火) 16時30分~18時30分
学術情報総合センター AVホール
鄧小南(北京大学歴史・中国中古史研究中心系教授)「唐宋代の女性について」

第32回研究会

2005年1月13日(木) 14時40分~16時10分
田中記念館A3会議室
常建華(南開大学歴史系教授)「明清時代の山西省洪洞県における宗族」

第33回研究会

2005年2月10日(木) 10時~12時
田中記念館A3会議室

劉馳 (中国社会科学院歴史研究所研究員)「中国古代農業研究と都市」

第34回研究会 シンポ準備会

2005年2月23日 (水)

経済学部棟第4会議室

山崎竜洋 (大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生)「村田路人『役の実現機構と夫頭・用聞の役割』」

中谷 惣 (大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生)「シンポジウム『水の都市文化』準備会」

貝原哲生 (大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生)「古代ローマの水道について」

米岡大輔 (大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生)「見市雅俊『コレラの世界史』」

辻 高広 (大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生)「熊遠報による北京の生活用水に関する研究」

第35回研究会

シンポジウム「水と都市文化」(重点研究と合同)

2005年3月19日 (土) 10時~17時50分

学術情報総合センター大会議室

(「重点研究について」参照)

国際交流

客員研究員 (客員教授)

鄧小南 (北京大学歴史・中国中古史研究中心系教授) を2005年1月6日から12日まで受け入れ。

COE研究員

劉馳氏 (中国社会科学院歴史研究所研究員) を2005年1月18日から2月20日まで招聘。

Bチーム「現代都市文化研究」の活動

山野正彦

前号 (第5号) 所載の2004年12月以降におけるBチームの活動について報告する。

(1) 研究会・講演会・公開シンポジウムの開催

2005年3月末までに下記の研究会・講演会を開催した。

第33回研究会

2004年12月22日 (水)

10:00 ~ 11:45 運営委員会

13:00 ~ 14:45 研究会

文学部355実験系実験実習室

報告: 西部均 (COE研究員)「1949年以前の上海の都市形成に関する資料と知見」

岸政彦 (COE特別研究員)「同化と他者化——戦後の沖縄アイデンティティの構造と変容」

第34回研究会

2005年2月21日 (月)

文学部355実験系実習室

報告: 谷富夫 (COE事業推進担当者)「外国人労働者問題の国際比較」

稲月正 (北九州市立大学教授)「民族関係意識の国際比較—日本・北九州市と台湾・板橋市」

二階堂裕子 (COE特別研究員)「韓国・仁川市民のコミュニティ意識」

第35回研究会

2005年3月22日 (火)

文学部増築棟363研究室

報告: ユルリワン・ダフリ (インドネシア芸術大学美術学部専任講師)「伝統文化と都市: ムラユ (スマトラ) 系伝統建築の装飾」

神田孝治 (COE研究員)「日本統治期台湾における国立公園の風景と心象地理」

(2) 海外での活動

前号所載のもの以後、2004年度末までの教員の海外調査のための出張は下記のとおりである。

中川 眞 (COE事業推進担当者)

2004年11月25日~12月15日

タイ王国

環境モノグラフ調査および第3回バンコク・アカデミックフォーラム参加

山野正彦 (COE事業推進担当者)

2005年2月20日~2月25日

タイ王国

バンコクサブセンターの運営・管理および環境モノグラフ調査

中生勝美 (COE事業推進協力者)

2005年3月3日~3月6日

中華人民共和国

上海市における都市化の歴史的系譜の解明に関する調査

水内俊雄 (COE事業推進担当者)

2005年3月3日~3月6日

- 中華人民共和国
上海市における都市経済・社会・建造環境
の現状と課題に関する調査
添田晴雄 (COE事業推進協力者)
2005年3月3日～3月8日
中華人民共和国
都市における学校改革とカリキュラム開発
に関する研究
木原俊行 (COE事業推進協力者)
2005年3月7日～3月8日
中華人民共和国
都市における学校改革とカリキュラム開発
に関する研究
中川 眞 (COE事業推進担当者)
2005年3月12日～3月18日
インドネシア共和国・タイ王国
サブセンターの整備と共同研究の推進

(3) 海外からの招聘研究者

- ユルリワン・ダフリ Yuriawan Dafri
インドネシア芸術大学美術学部専任講師
2005年1月26日～3月27日
大阪の工芸的土産品の製作に関する研究
受入教員は中川眞 (COE事業推進担当者)

Cチーム「都市の人間研究」の活動

高梨 友宏

2004年12月から2005年3月までのCチームの活動について報告する。

(1) 構成員

チームの構成員については本誌第4号の所記内容から変更はない。したがって、ここではメンバーの列記は省略する。

(2) 研究活動

当該期間中のCチームの主な研究活動として特記すべきは、松村國隆教授 (COE事業推進担当者) によって企画され、2005年3月1日に開催された国際シンポジウム (ただし本企画自体には「コロキウム」という呼称が用いられた) 「都市と人間」である。

本企画のために、本学との学術交流協定下にあるハンブルク大学より、とくにCOE研究事

業においても様々な研究交流の実績を重ねてきた同大学東洋学部アジア・アフリカ研究所日本学研究室の専任講師・宮崎登氏および同講師・アンドレアス・レーゲルスベルガー氏の2名、また本学文学研究科と研究交流協定を結んでいるデュッセルドルフのドイツ「恵光」日本文化センターより、客員研究員のグレゴア・パウル氏 (カールスルーエ大学教授) および同専任研究員のヤン・マルク・ノッテルマン氏の2名、以上計4名のスピーカーが招聘された。

いずれの研究報告もCチームの研究理念に沿った示唆的かつ刺激的な内容で、延べ50名を超える会場の参加者との間に活発な質疑応答が交わされた。Cチームの活動の掉尾を飾るに相応しいシンポジウム (コロキウム) であった。なお、本誌「シンポジウム」の項には4名の研究報告者から寄せられた寄稿論文が掲載されている。

その他の研究会活動としては、Cチームの研究例会が2回、および「市大演劇研究会」 (本研究会は2005年4月以降、Cチームから大阪プロジェクトへ移管された) の研究会が1回行われている。

以下、研究会等に関するデータを開催日時の順に記す。

第2回市大演劇研究会

2004年12月15日 (水) 16:30～

比較言語文化情報処理実験室

報告: 三上雅子 (COE事業推進協力者) 「『女殺油地獄』の受容について―戦後の歌舞伎上演及び小劇場での上演例―」

第23回研究会

2004年12月15日 (水) 18:00～

比較言語文化情報処理実験室

報告: 中才敏郎 (COE事業推進担当者) 「哲学三都物語―デイヴィッド・ヒュームとパリ、ロンドン、エディンバラ―」

国際シンポジウム (コロキウム) 「都市と人間」

2005年3月1日 (火) 13:00～

田中記念館第2会議室

報告: グレゴア・パウル (カールスルーエ大学教授, ドイツ「恵光」日本文化センター客員研究員) 「都市と倫理―伊藤仁斎の場合―」
宮崎登 (ハンブルク大学専任講師) 「多文化社会とは何か―日本とドイツの比較―」
ヤン・マルク・ノッテルマン (ドイツ「恵光」

日本文化センター専任研究員)「都市と宗教
—ドイツにおける世俗化とグローバリゼー
ション—」

アンドレアス・レーゲルスベルガー (ハンブ
ルク大学講師)「浄瑠璃における芸道論」

第24回研究会

2005年3月17日(金) 16:30～

第2会議室(法学部棟)

報告:筒井香代子(COE研究員)「ハーディと
都市ロンドン」

小西嘉幸(COE事業推進協力者)「近代日本の
ルソー受容の一側面—自伝文学をめぐって—」

大阪プロジェクト・重点研究の活動

塚田 孝

2005年4月以降、COE事業全体が改変され、
その一環として大阪プロジェクトが組織され
た。これは、大阪市立大学都市文化研究セン
ターの所在する大阪を軸とする研究基盤の
整備と都市研究推進の役割を担うものであ
る。

一方、大阪市立大学がCOE事業をサポート
することを目的の一つとして実施されている
文学研究科の重点研究「都市文化創造のた
めの比較史的研究」は、①大阪の都市史研
究それ自体を推進すること、②大阪を念頭
に置きつつ、世界的規模での比較史を推進
することを課題としている。

こうした研究目的の共通性から、両者は緊
密に連携して運営することが必要であると判
断され、大阪プロジェクトの研究推進者・協
力者と重点研究分担者が合同で、運営会議
を開催し、事業を行なっていくこととした
(以下では、大阪・重点運営会議と略称)。

大阪プロジェクトに含まれる事業は、「比較
都市文化史研究の推進」・「歴史遺産と都
市文化創造」・「大坂関係史資料の基盤
整備」・「大阪(大坂)関係中世文書の写
真版による収集」・「上方文化講座(都市
と演劇)」・「多文化共生に関する都市実
態調査(国際比較)」など多彩である。こ
れらは、独自の実施体制を持つ事業も含
まれているが、全体として大阪・重点運
営会議で相互調整を図りながら、計画・
実施される。今後、独自の実施体制を持
つ事業については、適

宜、別項を立てて活動記録を掲載すること
になる。

本共同活動の特徴について、もう一つ触
れておきたい。それは、事業内容におい
ても、活動スタイルにおいても、旧体制に
おけるAチームの活動を引き継ぐ側面が
大きいことである。事業内容については
Aチームの項を参照されたい。活動ス
タイルという点では、月例研究会を基本
(月一回とは限らない)に、節目に大
きなシンポジウムなどを開催し、成果
を取りまとめていくという方法である。

研究会活動

2005年7月までに行なわれた研究会は、
以下の通りである。

第1回

2005年5月28日(土) 13:30～17:00

第2会議室(法学部棟)

報告:ダニエル・ボッツマン氏(ハーバード大
学歴史学部準教授)「『解放令』の舞台裏—
明治初年神戸の社会的諸関係と大江卓—」

第2回 シンポジウム「大阪および日本の都市の 歴史的発展」

2005年6月11日 10:00～17:00

学術情報総合センター文化交流室

開会あいさつ、趣旨説明 柴原永遠男(COE
事業推進担当者)

岸本直文(COE事業推進協力者)「古墳時代
における都市形成」

柴原永遠男(COE事業推進担当者)「日本列
島における難波の位置」

ジョーン・ピジョー(南カリフォルニア大
学歴史学部教授)「日本古代中世の都市」

仁木 宏(COE事業推進担当者)「中世大坂
都市論—都市群とネットワーク—」

塚田 孝(COE事業推進担当者)「17世紀大
坂の都市像の再検討」

広川禎秀(大阪市立大学名誉教授)「関一と
大正デモクラシー」

水内俊雄(COE事業推進担当者)「マイノリ
ティからみた戦後大阪の空間と社会」

討論(司会 塚田孝)

本シンポジウムは、大阪LAプロジェクト
と共催で開催された。追って、報告書を
刊行する予定である。

第3回

2005年6月25日（土）13:00～17:00

第2会議室（法学部棟）

報告：高畑幸（COE研究員）「都心の多文化共生一名古屋市中区栄東地区の事例」

四本奈央（COE研究員）「宝暦歌舞伎における作者と役者の動向」

小倉英樹（重点研究RA）「中世内乱期の在地社会論研究によせて」

戸田州彦（重点研究RA）「近世都市貝塚における寺院社会研究」

中国プロジェクトの活動

水内 俊雄

本年度の活動を開始するとき、中国での3月から4月にかけて起こった反日デモのニュースに接することになった。SARSで事業の遅滞を来した経験もあり、現地の状況をいち早く確認するために、ちょうど5月12日から18日まで上海に出張した中生勝美（COE事業推進協力者）が、当地の状況についても意見交換を行った。共同研究のパートナー、および杭州大学の教員、上海領事館、大阪市上海事務所、共同通信上海支局で意見交換を行った。上海における貧富の格差の拡大、外来人口の増加による治安の悪化など、歴史認識の齟齬という中心課題と複雑に絡み合っているものであり、しかしながら共同研究の進行に障害とならないことを確認し、かつ、法政ルートにおいて都市問題を研究する意義の大きさを改めて認識した。

組織変更のため、上海・サブセンターと北京・サブセンターで行われていたプロジェクトを合体して、中国プロジェクトが2005年4月より発足した。とはいえ、両センターとも現地でのプロジェクトを主体に事業化されているため、実質は何ら変わらない体制で、本年度も臨むことになっている。

上海・サブセンターについては、前年度までの項を参照していただきたい。人文ルート、法政ルート、教育ルートでは、多くの刊行物の出版をみたことを報告しておく。

また教育ルートでは、2005年6月12日～14日、佐藤真（兵庫教育大学教授）、木原俊行（COE事業推進協力者）、鄭楊（COE特別研究員）、添田晴雄（COE事業推進協力者）が、本年度に実施する「都市における学校改革とカリキュラム開発に関する質問紙調査」、特に、その内容及び様式を現地研究チームと合同で検討し、その具体化に努めた。

第4回

2005年7月17日（日）13:00～17:00

第4会議室（経済学部棟）

報告：八木滋（大阪歴史博物館学芸員）「近世大坂都市史研究の現状と課題」

マーレン・エーラス（ハンブルク大学大学院学生・交換留学生）「大野藩の古四郎一藩社会の中の非人集団一」

本研究会は、近世大坂研究会と共催で開催された。

第5回

2005年7月30日（土）13:30～17:00

第4会議室（経済学部棟）

挨拶：中村圭爾（COE事業推進担当者）

報告：銭杭（上海社会科学院研究員）「上海都市生活史に関するいくつかの問題点」

通訳：王標（COE研究員）

王莉平（ミネソタ大学歴史学部教授）「アメリカにおける中国都市文化研究の現状」

通訳：高畑幸（COE研究員）

コメント：大黒俊二（COE事業推進協力者）「ヨーロッパの都市研究の立場から」

司会：井上徹（COE事業推進担当者）

大阪・重点運営会議

以上のような研究活動を実施するために行なわれた大阪・重点運営会議は、以下の通りである。

- ① 2005年4月 8日（金）10:00～11:00
- ② 2005年5月20日（金）10:00～11:00
- ③ 2005年6月17日（金）10:00～11:00
- ④ 2005年7月15日（金）10:00～11:00

東南アジア・プロジェクトの活動

中川 眞

2005年前半は特に目立った動きはないが、昨年からの研究・調査は大きな変更もなく順調

に推移している。2005年度の研究計画は以下のようなものであり、4月からはこれに沿って現地調査等が行われている。

2005年度研究計画

- (1) サウンドスケープ、路上文化（ジョクジャカルタ、チェンマイ、バンコク）
- (2) 文化遺産とツーリズム（バンコク、チェンマイ、ジョクジャ）
- (3) 共生を基軸とした創造都市（バンコク、ジョクジャカルタ）
- (4) その他

(1)は主として都市の路上をフィールドとする文化・環境の記録・調査である。路上文化のなかでもストリート・パフォーマンス等は、サウンドスケープの大きな構成要素であり、両者は重なり合うところが大きい。(2)はそれぞれ近郊に世界的な文化遺産をもつ都市であるが、文化遺産の範囲を、例えばパフォーマンスのようなものにまで拡大して捉え直し、それをツーリズムと結合させる方法論などを考察する。(3)は現代の創造都市の基盤には「共生」の思想が必須ではないかという観点から、事例としては、障害者のための都市デザインをアジア的な観点から捉えることを試みる。

以上の計画の実施状況は以下の通りである。

- (1) 2005年5月9日～24日に、中川眞（COE事業推進担当者）のほか、共同研究者の野村幸弘（岐阜大学教育学部助教授）によって、ジョクジャカルタの路上の風景のドキュメントを行った。また同時期に、アナン・ナルコン（マヒドン大学音楽学部講師）、ヨハネス・スボウォ（インドネシア芸術大学上演芸術学部講師）、野村誠（音楽家）による「都市文化としての即興演奏」に関するワークショップ、コンサート（5月12～16日）を行い、5月17日には中川眞、野村幸弘をパネリストとする専門セミナー「都市文化と映像記録」をインドネシア芸術大学メディア学部で開催した。

サウンドスケープについては、ジョクジャカルタ、チェンマイの調査を継続中で、ジョクジャカルタについては、2005年度中にインドネシア語・英語バイリンガルによる単著を出版する予定である。

- (2) 寺院における壁画調査については、山野正彦（COE事業推進担当者）が共同研究者のカンタマラ・クックデイ（チュラロンコン大学芸術学部助教授）とともに、バンコクならびにチェ

ンマイにて3月27日～4月6日に行った。また、5月より共同研究者であるブッサコーン・サムロントン（チュラロンコン大学芸術学部助教授）が中心となって、バンコク市西北部のコークレッドにて、cultural map（文化地図）の調査並びに制作を始めている。これは、当該地域に多く住む芸術家、楽器や工芸の製造職人に対するインテンシブな聞き取り調査をもとにしたもので、この情報と観光事業をドッキングさせることを最終目標としている。

またチュラロンコン大学からの要請により、山野正彦は同大学博士課程のバタラワディの論文指導を行っている。これは、彼女がCOE研究員として2003年度に市大に滞在したことが発端となっており、COE事業の新たな展開の一部といえる。

- (3) 障害ある人とのアート活動については、中川眞が奈良市のたんぼぼの家で継続的に調査、実践活動を行い、その成果を、バンコク、ジョクジャカルタの同様の活動と比較する研究を行っている。
- (4) 5月24日に客員教授であるヴィンセント・マクダモット（ルイス・クラーク大学名誉教授）による講演会（東南アジア・プロジェクト研究会）”Multicultural Encounter; Indonesia, Japan and USA”を行った。

5月27日には、都市文化研究センターとの共催で、日本サウンドスケープ協会シンポジウム「音のアーカイブ」が大阪市立大学文化交流センターにて行われた。

6月5日に客員教授であるヴィンセント・マクダモットの新作によるガムランコンサート「碧の森」が滋賀県甲賀市水口町碧水ホールにて、都市文化研究センターとの共催で開催された。

アーカイブス・プロジェクトの活動

井上 徹

(1) 活動の目的と計画

2005年度より再編されたCOEの新体制のもとで、アーカイブス・プロジェクトは、大阪、中国、東南アジアの3プロジェクトと連携して、各地域の都市に関する研究成果を相互に関連させながら継続的に蓄積し、内外に発信することを課題とする。その具体的内容は次の通りである。

- ① 従来の研究教育チームで蓄積されてきた情報を継承するとともに、新たに発足した3プロジェクトと協力して、資料収集、データベース、研究成果の公開を統括することによって、研究拠点形成と情報発信をより効果的に行う。
- ② 「英語による公表、英語によるホームページの整備」を実現するために、英語による出版、データベースの充実を図り、また質の高い研究成果の公表のために、ネイティブ・チェック体制を強化する。
- ③ 都市文化理論国際シンポジウム（仮称）の開催を企画する。具体的には、都市論に関して世界的な水準の研究成果を上げてきた研究者を招いて、最先端の理論を積極的に摂取し、本COEプログラムが蓄積してきた具体的研究成果と結合させることによって、都市文化研究のための理論的構築を図る。シンポジウムの成果を公表し、「都市文化学」という新しい学問分野の課題と方法について明らかにする。

上記3つの課題に基づく作業を段階的に進めていく予定である。最初に取り組むべきは、COEの新体制の発足にともない、ホームページ（日本語版、英語版）を更新することである。ついで、従前の教育・研究資源を受け継ぎつつ、新たな情報を加えて、データベースを構築する。また(3)の国際シンポジウムは本年度中に開催する予定である。

(2) 構成員

アーカイブス・プロジェクトのメンバーは次の通りである。

チーフ：井上徹（COE事業推進担当者）
 メンバー：井上浩一（COE事業推進担当者）、石田佐恵子（COE事業推進担当者）、佐々木雅幸（創造都市研究科、COE事業推進担当者）、イアン・リチャーズ（COE事業推進協力者）
 他プロジェクトからの協力者（いずれもCOE事業推進担当者）：水内俊雄（中国）、橋爪紳也（大阪）、仁木宏（大阪）
 COE特別研究員：西部均、山崎覚士
 COE研究員：高畑幸、北條慈応、中岡深雪

また、本プロジェクトは、他の3プロジェクトと協力しながら事業を推進する必要があるこ

とから、大阪プロジェクト、中国プロジェクト、東南アジアプロジェクトの各チーフ（塚田孝、水内俊雄、中川眞）と密接に連絡を取り合う。更に、拠点リーダー、拠点副リーダー（栄原永遠男、山野正彦）にも適宜、事業計画への協力を依頼する。

(3) 事業計画の推進状況

本プロジェクトは、事業計画を実施するために、現在までに3回の会議を開催した。

第1回会議

2005年4月21日（木）16:30～17:30

非常勤講師控室（文学部棟）

(1) ホームページの更新

- ① 従来のホームページ（以下、HPと略称）を更新し、2005年度版を作成するために、更新の内容と関連する依頼事項に関して、「ホームページの更新内容と依頼事項」を作成した。
- ② HP更新の担当者は、四井恵介（地域・研究アシスト事務所）とする。
- ③ 英語版の作成に関しては、翻訳及びデザインの担当者を今後検討する。
- ④ 海外のサブセンター（上海、北京、バンコク・ジョグジャカルタ）のHPはそれぞれの担当者が更新に責任をもつ。

(2) データベース構築

- ① データベース（以下、DBと略称）共通仕様の目安として、下記の点に留意するものとした。

多言語（日本語、英語、中国語）：文字コードとして、UNICODE（UTF8）を採用。
 複数者による入力（随時、情報を追加・修正）
 横断検索：個別DBを連結して検索可能にする。
 情報管理の問題：著作権、所有権、アクセス権

今後、技術スタッフの四井恵介、後藤真（大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生）に、DBシステム構築の仕様を検討してもらうことになった。

② 個別DB作成

DBシステムの基礎となるのは、各専門ジャンルごとに作成される個別のDBである。各DBのコンテンツについては、各プロジェクトもしくは各事業計画の責任とする。アーカイブス・プロジェクトより、必要なDB作成

について、各プロジェクトもしくは各事業計画に対して、要請を行うものとする。また、既成のDBは、本プロジェクトが、再構成、更新するものとする。担当者は四井、後藤。

③ 個別DBコンテンツの候補

個別DBのコンテンツとして候補に挙げられているものは次の通りである。グローバルベース、上田写真コレクション、音のアーカイブ、大阪都市文庫、中国都市に関する文献目録・資料DB、日本中世文書の写真版DB、上海地図DB、映像DBなど。

第2回会議

2005年6月4日(土) 13:30～14:50

学術情報総合センター・サブセンター(文学部棟)

(1) HPの更新について

- ① 第1回会議に基づき、事務局、各プロジェクトチーフ、サブセンター責任者に対して、HP掲載の原稿を依頼した。本会議では、その提出状況を確認した。
- ② HP掲載情報の共通仕様に関連して、構成、個人情報、写真などの掲載方法について審議した。

(2) 協力者について

- ① 本プロジェクト事業に対する協力者として、橋爪紳也、イアン・リチャーズを申請することとした。
- ② COE研究員・特別研究員の枠では、西部均(COE特別研究員)、山崎覚士(COE特別研究員)、中岡深雪(COE研究員)を登録することとした。

(3) HP英語版

- ① 英語版の作成は、日本語版の完成後に作業にとりかかる。
- ② 英文チェックの問題。各種ニュース類は事務局の担当とし、日本語原稿の英語への翻訳を中野耕太郎(COE事業推進協力者)に依頼し、最終チェックはイアン・リチャーズが行う。

(4) ヨーロッパの研究拠点について

2005年度以降、ハンブルク、ロンドンのサブセンターは都市文化研究センターから切り離し、ロンドン大学・ハンブルク大学とは別途に学術交流することになっている。HPにおいて、ロンドン大学・ハンブルク大学に関する情報を記載するかどうかを検討することになった。

(5) データベース関係

- ① DB構築については、日本語版、英語版の

HPが完成してから、本格始動させる。

- ② DBのコンテンツの提供を要請していくことになった。

第3回会議

2005年7月8日(土) 16:00～18:00

学術情報総合センター・サブセンター(文学部棟)

(1) 日本語HPの更新

- ① データ提出の状況:トップページデザイン、挨拶、大阪・東南アジア・中国・アーカイブスの各プロジェクト、サブセンター、事務局、『都市文化研究』編集委員会、文学研究科叢書編集委員会から提出されるHP掲載原稿の到着状況の確認を行った。未着分の原稿は届き次第、HPに掲載する。

② HP掲載情報

既着分の原稿をもとにして、見出し枠、各プロジェクトの紹介、個人情報などに関して、最終的なチェックを行った。また、新たにCOE全体の組織表を掲載することにした。

事業計画「都市文化創造と国際比較研究のための映像データベースおよびネットワークの構築」が進めている映像アーカイブのDBは、8月以降、順次、情報を集積し、HPに掲載していく。

HPに掲載する写真の提供は、石田佐恵子と井上徹がそれぞれ、東南アジアと中国を担当する。

(2) 都市文化国際シンポジウムの開催

- ① センター会議の決定に基づき、本シンポジウムの企画をアーカイブス・プロジェクトが担当することを確認した。
- ② 招聘研究者、開催期日は継続審議とする。

以上が現在までの会議録である。

HP(日本語版)の更新に関しては、第3回会議において最終的なチェックを終えて、すでにネット上に公開した。また、DB関係では、「上田貞治郎写真コレクション」(責任者:水内俊雄)を構築し、始動させた。更に、昨年度末にはサウンドスケープとグローバルベース用のサーバ2台を導入し、ソフトのインストールを行なった。前者については大阪市、ジョクジャカルタ市において収集した環境音ならびに関連資料のデータベース化に取り組んでおり、今年度中にグローバルベースに組み込む予定である。後者のグローバルベースについては、大阪市の中心部の絵図、大正中期の1万分の1、昭和17年の

空中写真、そして現在の空中写真を重ね合わせた試験的なグローバルベースを稼働させた。本格的運用は夏以降を予定している。

今後、英語版のHPの作成にとりかかるとともに、DB構築についても、共通仕様の確定、コンテンツの作成などの作業を進める予定である。

重点研究について

塚田 孝

重点研究「都市文化創造のための比較的研究」は、Aチームと連携して研究を進めてきたが、前号掲載以降、2005年3月末までの活動を紹介しておきたい。なお、4月以降の活動は、COE事業全体の改変にあわせて、「大阪プロジェクト・重点研究の活動」のところで紹介した。

本研究では、①大阪の都市史研究それ自体を推進すること、②大阪を念頭に置きつつ、世界的規模での比較史を推進することめざしているが、その課題②の具体化として、2005年3月19日（土）にシンポジウム「水の都市文化」を開催した。その内容は、次の通りである。

報告：大黒俊二（COE事業推進協力者）「水の都市文化－基調報告－」

樋脇博敏（東京女子大学文理学部助教授）「古代ローマにおける水道と都市生活」

和栗珠里（桃山学院大学文学部講師）「ヴェネツィアと水－海と陸のはざまで－」

見市雅俊（中央大学文学部教授）「ロンドン市民は水を飲んでいたら」

熊遠報（早稲田大学理工学部助教授）「18-20世紀における北京の飲料水問題」

村田路人（大阪大学文学部助教授）「宝永元年大和川付替えと大坂」

全体討論

本シンポジウムは、学術情報総合センター大会議室を会場に、井上浩一氏（COE事業推進担当者）を司会者として行なわれた。なお、2月23日のAチームの研究会は、本シンポジウムの準備会として行なわれたものである。

年度末に向けて、これまで積み上げてきた成

果の報告書として、以下の2点を刊行した。

① 『中国都市研究の史料と方法』（2004年3月10日シンポジウムの成果報告）

② 『近代大阪の都市文化』（2004年9月18日シンポジウム「近代大阪の都市文化」の成果報告）

なお、前記シンポジウム「水の都市文化」の成果は、次年度に報告書として刊行予定である。

これらの活動を推進するため、開催された〔重点研究運営会議〕は以下の通り（前号掲載分以降）。

第14回2005年2月 9日（水）10:00～11:00

第15回2005年3月10日（木）12:00～13:00

上海・サブセンターについて

榮原永遠男

はじめに

2004年12月4日から2005年3月31日までの状況について報告する。2005年3月上旬の事務局の出張についてまとめて記した後、人文ルート（山口久和）、教育ルート（添田晴雄）、法政ルート（水内俊雄）の責任者から提出された報告を、榮原の責任で加筆・整理した。

3月上旬の出張

3月3日（木）

井上浩一教授（COE事業推進担当者）、水内俊雄教授（COE事業推進担当者）、添田晴雄助教授（COE事業推進協力者）と中岡深雪（COE研究員、大阪市立大学大学院経済学研究科大学院学生）と榮原の5人で関西国際空港から出発。夕刻、華東師範大学逸夫楼に入る。華東師範大学に留学中の篠田尚子（大阪市立大学大学院文学研究科大学院学生）も合流。深夜、中生勝美助教授（COE事業推進協力者）到着。打ち合わせ。

3月4日（金）

① サブセンターにおいて陳映芳氏（法政学院教授、現代城市社会研究中心所長）と意見交換。

② 大阪市上海事務所を訪問し、杉中庸二副所長と面談。COE事業について協力を要請。

- ③ 逸夫楼において高瑞泉氏(人文学院院長)と意見交換。

3月5日(土)

- ① 午前中に、教育科学学院と2004年10月のシンポジウム内容の刊行について相談。
② 杜成憲院長と会見。6月に上海で第2回調査打合せを実施することで合意した。

3月6日～7日

翻訳のチェック作業がつづけられた。

人文ルート

- ① 2004年12月16日から20日に、中生助教授が華東師範大学に出張。人文学院と共同研究について打ち合わせを行った。
② 2004年10月28、29日の両日に大阪市立大学文化交流センターにて行った第2回日中共同シンポジウム「中国における都市型知識人の諸相」の諸報告について、華東側は高瑞泉院長、COE側は山口久和教授(COE事業推進担当者)が責任者となり、論文の書き直しと翻訳が行われた。その成果として、本年3月末日に研究報告書『中国における都市型知識人の諸相—近世・近代知識階層の観念と生活空間—』(B5判307頁)を刊行することができた。
③ 目下、同書の中国語版『城市知識分子的二重世界』(上海古籍出版社)の今秋刊行に向けて高瑞泉院長と山口久和教授が鋭意共同編集に当たっている。
④ 2005年3月4日、逸夫楼において、井上浩一教授、中生助教授、榮原と高瑞泉氏(人文学院院長)と意見交換し、つぎの点で合意した。
(a) 2004年10月のシンポジウムの中国語版の刊行費をCOEが負担する。
(b) 華東師範大学の211プロジェクトにCOEとして参加することを検討する。
⑤ 山口教授は、華東人文学院の211プロジェクトの招聘により、3月17日より25日まで上海方面に出張した。

3月17日(木)

華東師範大学逸夫楼に投宿。高瑞泉人文学院院長と今後の共同研究について意見交換した。

高院長から、(a)中国側の211プロジェクトは2005年で終了するが、COEとの共同研究をそのまま継続していきたい。(b)今年10月末頃に、上海にアメリカとヨーロッ

パから研究者を招請し、中国の近代化についての国際シンポジウムを開催する予定であるので、COE側もこれに参加してほしい。(c)COE側は日本人研究者の渡航費と2006年度にその成果を中国で出版する出版費を負担してほしい、等の意向が示された。

これに対して山口教授は、COE終了後については確たることは言えないが、高院長の希望は私(山口)の希望と同じである、今年度の211シンポジウムに参加することは、COEの最終年度を日中欧米の大規模な国際シンポジウムで花を飾ることになるので、参加は願ってもないことである、と応じた。

3月18日(金)

午後、総合教育棟8階にて講演会。

山口教授「章学誠の歴史哲学の理論的射程—文献実証主義を超えるもの—」

王標(COE特別研究員)「中国人研究者から見た日本の中国研究の現状と問題点」

人文学院の若手教員と博士課程生およそ40人が参加。王標COE特別研究員の巧みな通訳により、非常に活発な質疑応答が交わされた。

3月20日(日) 陳映芳所長と会談。

3月24日(木) 上海サブセンターを訪問。

3月25日(金) 帰国。

教育ルート

- ① 2004年12月16日から20日に、中生助教授が華東師範大学に出張。教育科学学院と打ち合わせを行った。
② 添田助教授(3月3日～8日)、木原助教授(3月7日～8日)が上海に出張し、教育科学学院と「都市における学校改革とカリキュラム開発」および共同研究の推進について打ち合わせを行った。

3月5日(土)の午前中に、教育科学学院の王建軍、黄忠敬、黄向陽氏と面談。2004年10月のシンポジウム内容の刊行(『都市の小・中学校におけるカリキュラム開発の実践と課題—日本・中国の比較検討—』〔日本語版〕、全130頁、2005年3月)に向けて、原稿の進捗状況と翻訳のチェックを行った。つづけて、杜成憲院長と会見し、速やかな刊行、6月に上海で第2回調査打合せを実施することで合意した。

3月6日以降は、翻訳のチェック作業がつけられた。

なお、上記書籍の中国語版（200頁）は、2005年5月に華東師範大学から刊行される予定である。

法政ルート

- ① 2004年12月16日から20日に、中生助教授が華東師範大学に出張。法政学院と打ち合わせを行った。
- ② 3月4日（金）サブセンターにおいて陳映芳氏（法政学院教授、現代都市社会研究中心所長）と意見交換。以下の点で合意した。
 - (a) これまでのCOEと華東師範大学との共同研究の成果を2冊にまとめて2004年度中に刊行する。
 - (b) 1949年以降1980年代までを対象とする研究成果は、ISBNつきで刊行する。
 - (c) 8月に大阪市立大学でシンポジウムを行う。

3月4日～6日に、水内俊雄・中岡深雪は「上海における都市化の歴史的系譜の解明と都市経済・社会・建造環境の現状と課題」についてフィールドワークを行った。また、サブセンターの書類を整理した。
- ③ つぎの2点が刊行された。

『1949年以前の上海の空間と社会』（水内俊雄編、全46頁、2005年3月）

『上海市棚戸区居民家庭生活史』（陳映芳編、都市文化研究センター・華東師範大学現代都市社会研究中心発行、A4判、217頁、2005年3月）

北京・サブセンターについて

中村 圭爾

社会科学院歴史研究所との協定に基づき、研究者を招聘し、共同研究を実施するとともに、インターナショナルスクールの一部を担当してもらった（2004年9月）。また、データベースを充実化する事業を継続した。さらに、共同研究のさらなる推進と業績の公刊をめざして、調整中である。

ジョクジャカルタ・サブセンターについて

中川 眞

2005年前半で目立った動きといえば、次の2点である。ひとつはセンターの移転である。2年余りホテル・ウィスマアリーズに置かれていたサブセンターは、4月1日をもってジョクジャカルタ市内のムルガンサンキドゥルに移転した。民間の家の一室であるが、ガムランや舞踊のスタジオがあり、多くの文化人によく知られていること、またガジャマダ大学とインドネシア芸術大学のちょうど中間に位置していることが利点であり、移転に伴う障害もなく、平穩に稼働している。

第2はホームページの作成である。4月から運用が開始され、大阪のセンターとの緊密な連携のもと、サブセンターの最新のニュースを提供している。

バンコク・サブセンターについて

山野 正彦

バンコク・サブセンターのあるチュラロンコン大学芸術学部、さらに研究者交流関係のある同大学建築学部との協力関係は次第に深まりつつある。

事務補助員のNarattaporn Modjot氏は2005年3月31日付で退職し、替わってMaliwan Onsoi氏が4月1日から勤務している。タイ中部ピサヌローク出身の有能な女性である。

山野正彦（COE事業推進担当者）はチュラロンコン大学芸術学部Patarawdee Puchadapirom助教授（2004年1月～3月にCOE招聘研究員として大阪市立大学に滞在）の博士論文研究指導のため、Kanchanpisekプロジェクトのタイ研究基金招聘により、3月27日～4月6日までバンコク・サブセンターに駐在した。この間、パタラワディ助教授の指導教授であるDhida Sarayaチュラロンコン大学名誉教授とともにタイ文化研究に関する研究指導に従った。

ハンブルク・サブセンターについて

栄原 永遠男

2005年1月14日の第31回センター会議において、中間評価をうけて、今後のCOE事業の基本方針の1つとして、研究の対象・拠点を大阪・アジアにおくことが確認された。これにともない、ハンブルク・サブセンターにおける教育・研究活動を、都市文化研究センターから文学研究科へ引き継ぐことも承認された。

しかし、ローラント・シュナイダー教授が2005年3月末に退職される予定で、それにもなつてハンブルク大学側にどのような変化が生じるかよくわからないので、2月10日から3月2日まで来日された宮崎登ハンブルク大学講師と意見交換することとした。その内容は以下の通りである。

- ① サブセンターの置かれている106号室は、ハンブルク大学としては客員教授室として使用する。したがって、大阪市立大学だけでなくそれ以外の大学の教員も使用する。
- ② 大阪市立大学文学研究科としてサブセンターが存続していると思なしてもさしつかえない。
- ③ 現在106号室に配置している機材その他は、そのまま置いておく。ただし、所有権が大阪市立大学にあることを確認した上で、同室を使用するものが自由に使用することを大阪市立大学として認める。
- ④ シュナイダー教授の退職のお祝いの会が予定されている。そのときにシュナイダー教授に、これまでの厚意に対してお礼の言葉を述べるほうがよい。
- ⑤ 4月以降、栄原新研究科長が、できれば直接マンフレット・ポール教授に①～③について挨拶するのがよい。

このうち①②③については、第34回センター会議で了承された。

④⑤については、宮崎講師の帰国後もメールで相談を続けた。その結果、④について、4月上旬にデュッセルドルフで開催予定のシンポジウムに、シュナイダー氏と阪口弘之氏がともに参加する予定であるので、そのときに阪口氏からシュナイダー氏にお礼を述べてもらうことになった。

また、④⑤については、栄原が④のお祝いの会に出席して、重ねてシュナイダー氏にお礼の言葉を述べるとともに、ポール教授に挨拶をす

る方向で検討することとなった。

以上が3月末までの状況であるが、4月以降についても簡単にふれておきたい。

4月上旬のデュッセルドルフのシンポジウムで、予定通り阪口氏によってシュナイダー氏に対して謝意が表明された。

④の会については、ミカエル・フリードリッヒ教授から正式の招待状が栄原あてに届いたが、日程上、業務上出席することはできなかった。

ポール教授を、2005年度のインターナショナルスクールの講師として招聘することになった。

ロンドン・サブセンターについて

栄原 永遠男

2005年1月14日の第31回センター会議において、中間評価をうけて、今後のCOE事業の基本方針の1つとして、研究の対象・拠点を大阪・アジアにおくことが確認された。また、これにともない、ロンドン・サブセンターにおける教育・研究活動を、都市文化研究センターから文学研究科へ引き継ぐことも承認された。

これにともない、SOASのガーストル教授と連絡を取り、2004年3月8日に締結した「Hire of Room 349 at SOAS」のOsaka City Universityの内実が、都市文化研究センターから文学研究科に変更するについての問題点を問い合わせた。ガーストル教授からは、SOASは大阪市立大学と協定しているから、大阪市立大学の内部における変更については問題ない、という意味の回答を得た。

つぎに、SOAS349号室は、東京外国語大学と共同利用しているので、この交渉に入った。2005年1月25日付けで、東京外国語大学COEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」の拠点リーダー藤井毅氏あての「ロンドン大学SOASの349号室の共同利用に関する変更申し入れ」を作成し、同日栄原が東京外国語大学におもむき、これにもとづいて説明し、理解を求めた。「変更申し入れ」の要点は、以下の通り。

- ① 2004年3月9日付けで締結した「ロンドン大学SOASの349号室の共同利用に関する覚書」の名義（乙）を、大阪市立大学21世紀COEプログラム「都市文化研究センター」から大阪市立大学大学院文学研究科に変更す

る。これにともなって、協定締結代表者を都市文化研究センター拠点リーダーから文学研究科長に変更する。

- ② SOAS349号室をCOE事業から切り離すが、文学研究科がSOASとの学術交流を引き継ぎ、349号室を利用したい。

藤井拠点リーダーとの話し合いの結果、部屋代の負担に変化がないのなら問題は生じない、従来の覚書の変更ではなく、読み替えの覚書を取り交わすことで対応する、東京外国語大学としては、総括班会議での、大阪市立大学はセンター会議での承認をもって正式の承認とする、の3点で合意に達した。

この件は、東京外国語大学では1月26日のCOE総括班会議、大阪市立大学は1月26日の第32回センター会議でそれぞれ了承された。ついで、2月15日付けで覚書の補訂が取り交わされた。

ロンドン大学SOASの349号室の共同利用に関する覚書の補訂

平成16年3月9日付けで取りかわした「ロンドン大学SOASの349号室の共同利用に関する覚書」につき、以下の点を補訂する。

1. 平成17年4月1日より、同覚書中の大阪市立大学21世紀COEプログラム「都市文化研究センター」を、大阪市立大学大学院文学研究科と読みかえる。
2. 同覚書の署名部分の大阪市立大学側の拠点リーダーの呼称を、同日より文学研究科長に読みかえる。

平成17年（2005）2月15日

東京外国語大学21世紀COEプログラム
「史資料ハブ地域文化研究拠点」

拠点リーダー 藤井 毅
(署名捺印)

大阪市立大学21世紀COEプログラム
「都市文化研究センター」

拠点リーダー 阪口弘之
(署名捺印)

ホームページ委員会

水内 俊雄

組織変更のため、本委員会の報告は、2005年1月から3月31日までとなる。この間の大きな出来事としては、アーカイブ、データベースにおいて、大阪の写真材料商として有名な上田貞次郎氏の蒐集／旧蔵になる写真コレクションのデータベース化が持ち上がったことと、国際日本文化研究センターの森洋久氏が進めている、GISの進化版であるグローバルベースのプロジェクトに、都市文化研究センターが地図データなどを提供の上、協働関係を取り結ぶにいたったことである。

上田貞次郎写真コレクションについては、貞次郎氏の嫡孫で、上田安子服飾学園の創始者安子氏（貞次郎氏の四女）の甥にあたる上田順一氏に、水内が以前から付き合いのあったK'S社の今井雅敏氏に仲を取り持っていただき、1月に紹介された次第である。その後、橋爪紳也氏（COE事業推進担当者）や研究生で写壇／写真材料商の研究を進めている小川直人氏、ホームページの管理を行っているアシスト事務所四井氏らと、幾度か堺市のご自宅訪問を、また順一氏も直接大学にお見えになるなどの交流を深め、3月に数百枚にもものぼる、明治初期から昭和戦前期の古写真アルバムを貸与いただくことで、正式な契約を行った。幸い既に高精度で電子ファイル化されていたため、K'S社に電子アーカイブ作成を発注した。その後については、アーカイブス・プロジェクトの項を参照いただきたい。この場を借りて、上田順一氏、今井雅敏氏にあつくお礼申し上げる次第である。

またグローバルベースのプロジェクトについては、1942年の大阪市所蔵の空中写真の貸与を経て、この空中写真をベースに、江戸時代の絵図、明治時代の測量図、そして現代の空中写真を重ね合わせながら、時代の異なる地図情報を同時に共有できるシステムの開発にも着手した。この経過についても、アーカイブス・プロジェクトの項を参照いただきたい。

組織変更は、ホームページ全体の構成を大きく変えるものとなった。3年間稼動してきた前ホームページは、新ホームページに置き換えられる。ただ新ホームページからもリンクして閲覧可能となっている。いつもながら、後方支援スタッフに感謝する次第である。

文学研究科叢書編集委員会

進藤 雄三

(1) 2004年度委員

井上 浩一 (COE事業推進担当者, 歴史学)
岸本 直文 (COE事業推進協力者, 歴史学)
小林 直樹 (COE事業推進協力者, 国語国文学)
阪口 弘之 (COE事業推進担当者, 国語国文学)
進藤 雄三 (COE事業推進協力者, 社会学, 委員長)
野崎 充彦 (COE事業推進協力者, アジア都市文化学)

(2) 活動記録 (2004年度後半期以降)

2004年度

第10回委員会

2004年12月22日

議題: 1. 第4巻『都市とフィクション』企画
取り下げについて
2. 第3巻『東アジア近世都市における
社会的結合』編集状況報告

第11回委員会

2005年1月28日

議題: 1. 第4巻企画取り下げについて
2. 第3巻編集状況報告

第12回委員会

2005年2月17日

議題: 1. 第3巻の編集
2. 第4巻以降の刊行計画・刊行形態につ
いて

第13回委員会

2005年3月21日

議題: 1. 第3巻の刊行について
2. 新編集委員, 次回委員会開催につ
いて

2005年度

2005年度委員

岸本 直文 (COE事業推進協力者, 歴史学)
中村 圭爾 (COE事業推進担当者, 歴史学,
委員長)
小林 直樹 (COE事業推進協力者, 国語国文学)
松浦 恆雄 (COE事業推進協力者, 中国語中国
文学)
石田佐恵子 (COE事業推進担当者, 社会学)
高坂 史朗 (COE事業推進協力者, アジア都
市文化学)

第1回委員会

2005年7月1日

議題: 1. 前年度委員会からの引き継ぎ
2. 本年度事業計画について
3. その他

『都市文化研究』編集委員会

仁木 宏

(1) 2005年度委員

高梨 友宏 (COE事業推進協力者, 哲学)
仁木 宏 (COE事業推進担当者, 歴史学,
委員長)
川邊 光一 (COE事業推進協力者, 心理学)
岩本 真理 (COE事業推進協力者, 中国語中
国文学)
大岩本幸次 (COE事業推進協力者, 中国語中
国文学)
イアン・リチャーズ (COE事業推進協力者,
英語英米文学)
神竹 道士 (COE事業推進協力者, ドイツ言語
文化学)
多和田裕司 (COE事業推進協力者, アジア都市
文化学)
この他, 編集委員会(会議)には, 荒平みほ
(編集補佐, COE事務局)が出席している。

(2) 2004年末から2005年度(途中)までの主な 活動(『都市文化研究』第5号掲載のニュース 以降の活動)

[編集委員会の組織]

2004年度まで

編集主任: 第5号担当=大岩本幸次
チーム担当: A=大岩本, B=土屋,
C=高梨

2005年度

編集主任: 第6号担当=高梨友宏
(チーム担当制はなくなった)

[査読体制]

投稿された論文については, 原則として,
第1次・第2次の二度の査読を課すことにし
ている。第1次査読では, 1本の論文につき,
編集委員1名, 非編集委員(文学研究科教員)
1名の2名で査読する。第2次査読は, 編集委

員各1名が担当する。

査読にあたっては、査読表を活用し、公正かつ正確な査読を期した。査読表はホームページ上に公開している。

査読を受けた論文を、他の論文類と区別するため、日本語キーワードの後に、論文受理・採録決定の日付を付けている。

[第5号について]

以下のような反省点があげられた。

- ① 主任（前・現）、編集補佐、印刷業者などが入稿1ヶ月前までに集まって打合会を開く。
- ② 原稿チェックについて、主任・編集委員長の役割分担を明確化する。

[第6号について]

- ① 印刷業者を変更するため、複数の業者からしぼり込み検討した。
- ② 表紙デザイナーに要改善点を申し入れた。
- ③ 編集後記は、編集主任・編集委員長のみが執筆することに改訂した。

[3言語（日・英・中）併用体制]

第6号に英文論文が投稿（特別寄稿）されたので、レイアウト、要約・ネイティブチェックのあり方などについて検討した。

今後、英文・中国文論文のための執筆要項を作成する。

[第7号にむけて]

投稿論文数と質の維持・向上のための方策を検討した。

(3) 活動記録（2005年7月11日現在）

（『都市文化研究』第5号掲載のニュース以降

の活動）

2005年

1月17日 『都市文化研究』第5号の集中校正

3月2日 第4号納品

5月11日 『都市文化研究』第6号投稿論文の第1次締切（論文2本の投稿あり）

5月13日 第22回編集委員会

- (1) 第5号の反省
- (2) 第6号の内容確認
- (3) 第6号への投稿論文の第1次査読者の決定
- (4) 3言語併用体制について
- (5) 第6号の刊行スケジュールの確認

6月3日 第23回編集委員会

- (1) 投稿論文の第1次査読の結果決定→投稿者に書き直し指示
- (2) 印刷所変更について審議。
- (3) 第7号のスケジュール等確認。編集主任は川辺委員。

6月9日 特別寄稿・在外研究レポートの締切

6月10日 新しい印刷業者（候補）と懇談。

6月27日 投稿論文の第2次締切（論文2本の投稿あり）

6月28日 編集作業打合会の開催

7月1日 第24回編集委員会

- (1) 投稿論文の第2次査読の結果決定
- (2) 編集作業打合会の報告
- (3) 集中校正（8/10）動員体制の確認

7月11日 ニュース部門原稿の締切